

## 「矯正してどうなる？」

## 文 飯塚 宏明

text by Hiroaki Iizuka

飯塚 宏明  
院長

この頃お年を召された女性の患者さんからよく受ける質問です。歳を取って歯並びが悪くなってきたから、周りの人が始めたから、マウスピースだと人と会うとき外せるから、1回行くだけであとは行かなくて済むから。

本当にそうでしょうか？

人には6歳をピークに「生誕の基」という、身体の変化を受け入れられる許容量があります。6歳の子供を思ってください。乳歯だろうが永久歯だろうが、歯があるうがなかるうがこの許容量の中であれば何の問題もなく元気に噛め、元気に遊んでいます。ではそれから何十年も経って矯正を行い、理想の歯並び、左右対称で形が整っていて、横顔が西洋人のように美しい口元に並べ替えたなら審美的には満足できるかもしれません。しかし本来の歯の機能は付いてくるでしょうか？

西洋人は肉食で、テーブルに置いたお皿からカットした肉をフォークやナイフを使ってソースにつけ、下を向いた状態で口に運びます。当然食物は前歯で切り裂き、奥歯まで行きません。日本人は穀物食です。お茶碗を持ち、

箸を使って、背筋を伸ばしてご飯を奥歯に入れ、穀物を奥歯ですりつぶす噛み方をします。このときに前歯が長く左右にすりつぶす運動ができないと何が起ころうでしょうか？

お口の中は歯とそれを支える骨と動かす関節の3つでできています。長い間に刷り込まれた神経筋機構は何とか元の咀嚼サイクルに戻そうとします。そのときに歯が強くて骨の強いときには顎の関節に症状が出ます。口が開かない、開けると音がする、開けると痛いなどの症状が出ます。歯が強くて関節も強いとき、支えている骨に負担がかかり、前歯がグラグラ動く、歯ぐきがそこだけ出血する、その辺りの顎の骨が疼くなどの症状が出ます。骨が強く、関節も強い場合、自分の歯がすり減る形で現れます。歯の先端が欠ける、詰め物が取れる、舌に口内炎が多発するなどの症状が出てきます。その人の持っている「生誕の基」の中であれば、許容し何事もなく美しい歯並びを手に入れることができます。ただ、移動量の許容範囲に関する判断は非常に専門的なため、一度当クリニックに相談し

て、許容範囲を超えて矯正をしてしまった場合に起こるデメリットを十分理解した上で矯正を行うかどうか決めてみてはいかがでしょうか。

次回は流行りのマウスピース矯正について考えてみたいと思います。



飯塚歯科ホームページ

<https://aidental-iizuka.com>

## Profile

1959年 神奈川県小田原市の米屋の長男に生まれる  
1985年 日本歯科大学歯学部卒業  
1988年 バイクで通勤中トラックと衝突し第1頸椎及び右手首粉砕骨折、絶対安静6カ月の入院生活を送る～ 医療従事者でありながらベッドの上で何もできない自分に出会い、これがきっかけで身体全体を考えるようになる～  
1990年 千代田区神田神保町に「飯塚歯科」開設  
趣味：ダイビングもうじき800本、サーフィン60歳でサーフィン始めて毎週通う。  
音楽：ボサノバ - セルジオメンデス&ブラジル 66、JAZZ-Idea6、J-POP - 中森明菜

